

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501803		
法人名	三井ヘルスサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	札幌市白石区栄通16丁目6-16 (電 話) 011-850-2077		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】 (平成19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円		円
その他の経費(月額)	・水道・光熱費 20,000円 ・暖房費 5,000円(11月～3月)		
敷 金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (65000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (退去時) / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	0名	要介護 2	2名
要介護 3	3名	要介護 4	3名
要介護 5	1名	要支援 2	0名
年齢	平均 86.7 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・記念塔病院 ・医療法人共栄会 ・札幌トロイカ病院 ・札幌デンタルクリニック ・やまうち内科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にあり、近くのサイクリングロードや公園など屋外に出かけやすい環境にある。また、交通のアクセスも良く面会に来易い場所にある。居住スペースも2階に9人が居住し、職員の目が行き届く広さの中で安全と健康管理を重視したサービスが提供され、入居者は穏やかな暮らしを送っている。ケア体制は看護師のホーム長と介護福祉士の管理者を中心に、きめ細かな観察に基づく情報収集、介護計画の実施と評価、申し送り体制の充実など情報共有体制をしっかりと確立し、入居者の個別性を大切にチームケアを提供している。また、ケアの質の確保のために人員配置を充実させ、職員個々の資質向上に向けた研修計画やキャリアアップ支援体制がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点に対する取り組みとして、事業理念の見直しや契約書に利用者及び利用者代理人の義務について明記している。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価も、職員全員の意見を反映し取りまとめられており見直しの機会にしている。自己評価及び外部評価は、家族がいつでも手にとって見やすい共用スペースに掲示している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	H18年8月より運営推進会議を隔月で定期的開催し、行事や日々の活動に対する意見や要望などについて協議している。メンバーは町内会長、民生委員、協力医、家族代表、包括支援センター職員などである。町内会長からの要望に応じ、H18年12月に「認知症高齢者の理解を深める講演会」を実施し20名ほどの参加を得ている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「あかりほのぼの通信」で利用者の暮らしぶりを写真などで伝えている。訪問が困難な家族には電話で定期的に連絡するなど、きめ細かな報告をしている。意見箱設置、事業所相談窓口及び外部関係機関への連絡先を共有場所に掲示、運営推進会議に家族代表が参加、グループホーム訪問時・家族交流会時などに家族に声をかけるなど日常的にコミュニケーションをとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の挨拶や声かけするようにしている。事業所主催のお祭りには回覧板で地域住民の参加を呼びかけたり、地域のお祭りに入居者が参加するなど積極的な交流の場づくりをしている。今後は地域や行政と連携し、地震などの災害時の支援体制の確立・地域住民への認知症の理解を深めるためのアプローチを継続すること・地域住民ボランティア及び施設外の方々との研修受け入れなど積極的な協働関係づくりが望まれる

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業理念を見直し、地域密着型サービスの提供を目指していくことが掲げられている。また、ホーム長が中心となり、職員は常に利用者の立場でサービスを提供する姿勢で協働するように申し送りや介護計画などきめ細かなケアマネジメント体制を整えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が常に目につく場所に事業理念が掲示され、毎朝のミーティングで唱和し、その周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の挨拶や声かけなどをするのは基より、事業所主催のお祭りには回覧板で地域住民の参加を呼びかけたり、地域のお祭りに利用者が参加するなど積極的な交流の場づくりをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点に対する取り組みとして、事業理念の見直しや契約書に利用者及び利用者代理人の義務について明記している。今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。自己評価及び外部評価は、家族がいつでも手にとって見やすい共用スペースに掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H18年8月より運営推進会議を隔月で定期的開催し、活動に対する意見や要望など協議している。メンバーは町内会長、民生委員、協力医、家族代表、包括支援センター職員などである。町内会長からの要望に応じ、H18年12月に「認知症高齢者の理解を深める講演会」を実施し20名ほどの参加を得ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者への積極的な情報提供や課題解決に向けた協議などの直接的な連携はしていない。	○	市町村担当者及び地域と連携することとしては、地震などの災害時の支援体制の確立・地域住民への認知症の理解を深めるためのアプローチを継続し、地域住民ボランティア及びホーム外の方々の研修受け入れなど積極的な協働関係づくりが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪問された際にお話したり、毎月発行する「あかりほのぼの通信」では利用者の暮らしぶりを写真などで伝えている。訪問が困難な家族には、電話で定期的に連絡するなどきめ細かな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・不満・苦情への対応は、玄関に意見箱設置、事業所相談窓口及び外部関係機関への連絡先を廊下の目のつきやすい場所へ掲示している。訪問時や家族交流会時などに家族に声をかけ、運営推進会議に家族代表が参加するなど意見・要望が言いやすい環境づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職はここ1年ほど行われていない。利用者一人ひとりに担当職員をつけ、入居時からアセスメント・介護計画作成・ケアの実施・評価まで継続して関わる体制を整備して、利用者の個別性を尊重し継続したサービスが提供できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は新規採用時と各職員毎に自己選択できる研修計画を取り入れている。研修費用は事業所負担、研修時間は勤務扱いなど参加しやすい体制となっている。またホーム長より、認知症ケア専門士などへのキャリアアップに向けた支援もされており、職員個々の資質向上を積極的に図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会へ参加し、情報交換をしている。同業の他ホームへ職員を研修に出したり、他ホーム職員の研修を受け入れるなど積極的な交流を実施し、その成果を日々のケアに取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを見学してもらい、入居を希望する際は事前に担当となる職員が訪問している。入居時はセンター方式を導入したきめ細かい情報収集と、ケアカンファレンスを頻回に行い個々の生活スタイルを見極めている。介護計画は毎月見直して作成するなど、早い時期から利用者の安心感を確保するための関わりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理、掃除、片付けなどに参加してもらう、アクティビティ参加時の役割を持つなど、利用者の得意な面や出来る能力を活かす場面を意識的に設定して、日課を過ごすような関わりをし、利用者と職員がうちとけた雰囲気の中で生活の場を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、きめ細かな情報を収集しケアに役立てている。特に意思疎通が困難な利用者の観察記録に工夫している。また、家族にも日常的に声かけして希望・要望を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員と担当者が中心になって介護計画を作成し、全体のカンファレンスで合意を得るプロセスを経ている。日々のケアも前日の生活状況からの申し送りをするなどチームとしての気づきや対応が継続でき、適時見直しをかけられるようなシステムにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があった際はアセスメントを実施したり、家族と協議して新たな介護計画を作成している。また、毎月介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスと合同で行事を催し、利用者や家族に参加してもらっている。また外出行事はデイサービスの介護車両を利用して行っている。利用者の行動が落ち着かない時にデイケアで気分転換を図るなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が常駐し病状悪化を予防するためのきめ細かな健康管理をしている。利用者個々のかかりつけ医を決め、定期的受診をしている。家族が同行できない時は職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての方針について、早い段階で家族と話し合いをしている。H17年12月には看取りのケアを実践している。看取りの対応マニュアルの作成、協力医療機関の確保など整備している。その時々本人・家族の意向を確認しながら要望があれば対応したいと看護職であるホーム長が話されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員が穏やかな態度で、利用者一人ひとりの状況にあった声かけや関わりをしている。ホーム全体の静かで落ち着いた雰囲気の中で利用者が暮らしている。記録類の置き場所など配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム長は、「職員の都合で仕事をすすめないこと」をケアの基本として職員に周知徹底している。入浴なども時間帯に合わせるのではなく、利用者の体調に合わせたペースで進めるなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の材料を使い栄養のバランスやメニューが偏らないように職員が交替で作成し、定期的に栄養士のアドバイスを受けている。調理や後片づけ食器拭きなど利用者も役割として手伝っている。職員も利用者と会話をしながら和やかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同姓による介助をしている。夜間帯は夜勤者1名のため実施していない。曜日を決定しているが要望があれば随時入浴できるようにしている。利用者の体調や気分を優先し、利用者のペースに合わせて午前・午後をかけて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合わせたアクティビティに取り組み、季節にちなんだ共同制作による作品がホーム内に展示されている。料理や掃除などで役割を担ってもらっている。カラオケ、買い物、紅葉狩りなどの季節に合った外出の機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に合わせて2~3人で近くの公園に散歩に出かけたり、日向ぼっこをしたり、夏季は畑作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないで、目配りを多くして安全確認をしている。やむをえず早朝で、職員が目がいき届かない状況では短時間に施錠することがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや連絡網を目のつく場所に掲示している。年二回の防災訓練を実施している。ホーム内の体制を確立し、緊急の対応が出来るように周知されているが、地域の支援体制の確立には到っていない。	○	地震などの災害時の利用者の安全は、事業所のみでの努力では対応しきれず地域や行政との連携が必要である。運営推進会議などで地域の協力を呼びかけ、災害時支援体制・非常用食料・備品の準備など、さらなる安全確保体制の整備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の介護記録に摂取状況の経緯がわかりやすい記入されており、摂取状況が少ない場合はタイムリーに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には熱帯魚の水槽が置かれ利用者も世話をしたり、利用者が共同制作した季節にちなんだ作品や行事の写真などが貼られ生活感や季節感が採り入れられている。共用スペースは広い窓から入る暖かい陽射しを受けて利用者がソファでゆったり過ごされている。コーヒーマーカーを常設し、好みに応じて提供するなど居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が大切にしている仏壇、馴染みの家具、室内装飾品、寝具などが使われ、配置も利用者の機能や状態に合わせて置かれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。